

令和4年度施政方針

2月17日に、令和4年第1回市議会定例会の冒頭、西岡真一郎市長が、施政方針演説を行い、令和4年度を迎えるにあたっての決意を表明しました。ここにその要旨をご紹介します。なお、全文は、企画

政策課でご覧いただけるほか、市ホームページで公開しています。
☎企画政策課企画政策係(市役所本庁舎2階☎042-387-9800)



1 はじめに

新型コロナウイルス感染症による市民生活への影響は非常に厳しい状況が続いています。本市においては、この間、緊急対応方針を第7弾まで策定し、「いのちを守る」、「くらしを守る」、「地域を守る」、「市民サービスの基盤を守る」ための取り組みを継続し、特にワクチン接種については最重要と位置付けて接種の促進を図ってまいりました。今後も、早期かつ安全なワクチン接種に努めてまいります。今後の経済見通しについて、令和4年度中にコロナ禍前の水準に戻るという予測なども見られますが、大きく下振れするリスクもございいます。引き続き、状況を注視し適切な対応に努めてまいります。

そして令和4年度は、今後の市政を着実に推進していくため、大きな課題についてその道筋を明確にすべき非常に重要な1年と捉えています。コロナ禍にあっても、庁舎等複合施設建設、本庁舎跡地等の活用を含む公共施設マネジメントなど、今後の全市的なまちづくりの具体化に向けて一歩一歩進めていかなければなりません。現実的な見通しをお示しできるように鋭意取り組んでまいります。

また、本年1月1日には、小金井市気候非常事態宣言を発出いたしました。本市の魅力であるみどり豊かな自然環境を将来世代へと責任を持って引き継いでいくため、今まさに非常事態となっていることを認識し、今すぐ行動しなければなりません。2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現をめざし、積極的な取り組みにご協力をお願いいたします。

庁舎等複合施設建設事業につきましても、本市の将来のため実現しなければならぬ重要な事業です。市議会でも決された決議や多様なご意見の趣旨を尊重し、検討してまいりますので、お時間をいただいているところであります。事業を推進するためには中長期的な視点から市政運営に努めなければならぬと考えています。

公共施設マネジメントにつきましては、3つの基本原則である総量抑制、PPPの活用、保有資産の有効活用への取り組みを進めるべく、庁舎等複合施設建設に伴う跡地等の効果的な活用に向けた方針を検討するとともに、教育委員会とも連携し、施設の老朽化対策、最適化への取り組みを進めてまいります。

本市では、循環型都市「ごみゼロタウン小金井」をめざし、発生抑制を最優先とした3Rの推進に取り組んでいきます。可燃ごみの処理につきましては、浅川清流環境組合の可燃ごみ処理施設が稼働3年目を迎えます。施設周辺にお住まいの皆様を始め、関係者の皆様のご負担を軽減するため、さらなるごみの減量や資源化の推進等、本市に与えられた役割と責任を誠実に果たしてまいります。本年8月1日には、不燃・粗大ごみ積替え・保管施設が完成し稼働を開始する予定です。あわせてリユース品の販売事業を開始するとともに、リユースおよびリサイクルを体験できる工房を併設し、ごみ減量の意識向上を図ってまいります。資源物処理施設については、令和6年度中の本格稼働をめざし、設計および工事区域内の建物解体を進めます。

2 令和4年度予算の概要および市政運営の基本政策

【令和4年度予算の概要】

また、まちづくりを着実に推進していくためには、最上位計画である基本構想の下、総合的かつ計画的に取り組むことが欠かせません。現在の社会経済状況を踏まえ、政策、施策の着実な推進に努めてまいります。

本市の財政状況は、起債の抑制と基金の積み立てを積極的に行い、持続可能な財政運営の構築に努めてきた結果、令和2年度決算において経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率等は改善されましたが、令和3年度は、普通交付税交付団体となり、さらに、新型コロナウイルス感染症への対応を最優先としなければならぬことから、厳しい財政状況であることが明らかであり、財政規律を緩めることなく、市民から信頼される市政の実現に向けて、コンプライアンスの推進にも努めていかなければなりません。令和4年度予算は、一般会計46億8千800万円、前年度対比13億3千800万円、3・0%の増、特別会計および公営企業会計を合わせた全会計では74億3千600万円、前年度対比21億7千347万7千円、3・1%の増となりました。

【環境と都市基盤―自然と都市が調和した人に優しいまち―】 これまで推進してきた駅周辺の利便性向上や無電柱化の取り組みなどに加えて、地域の生活を支える地域拠点の形成にも力を注がなければなりません。「歩いて暮らせるまちづくり」の実現に向けて、今取り組みなければならぬと考えており、具体的な検討を進めてまいります。併せて、次世代に誇れる自然と都市が調和したまちづくりのために、「みどりをいかにすく取り」を組み立ててまいります。東小金井駅北口では土地区画整理事業を着実に推進するとともに、梶野公園南側の芝生による緑化など、さらなる魅力向上を図ります。武蔵小金井駅北口では市街地再開発事業等に向けたまちづくりの検討がされており、適切な支援を継続してまいります。